

山田みやこの活動報告

令和2年1月28日(火)

鳥山母子寮・鳥山授産場へ行ってきました

経営主体 社会福祉法人南那須社会事業協会

対応者 施設長 松崎 総一氏

入所の母子は圧倒的にDV被害が多い。DVでの一時保護所の役割も持つ。

入所者は平均2年での退所を目標としている。外国人の入所者もいる。母親の年齢は40代前後、子どもは高校生までいる。(18人)

20世帯定員のところ現在8世帯、半数が県外からで1世帯を除き生活保護受給、児童扶養手当などの受給を生活費の収入としているが、金銭感覚が上手くできない母親もいる。半年に1回母親の支援計画を見直す。

携帯電話は施設側で退所まで預かるため使えないが、公衆電話は使える。風呂は以前は銭湯のような大きさだったが、入所者の希望もあり現在は家庭風呂の大きさになった。風呂代は母親3,800円/月 子どもは1,800円/月。

職員は午後6時15分で勤務終了。以前は午後8時15までだったが、職員の勤務内容がメンタル的に厳しく辞めていく人が多かった経緯がある。

入所者の費用は国が1/2、県が1/4、入所者の住んでいた市町が1/4で賄われているが経営は厳しい。設立後70年近く、現在の建物に改築して約50年。老朽化しているが建て替えの目途はない。2年に1回、経営状況を県が監査する。第三者評価も3年に1回実施されている。

授産施設の費用は国が3/4を負担。以前は仕事が多かったが、近年は減少。地域との交流は「秋のつどい」を開催し、自治会や近所の子どもたちも参加。

※県内に3つの母子寮があるが、鳥山も足利のさわらごハイム同様老朽化している。建て替えの目途はない。しかし、この施設をなくしては母子生活支援が難しい。県の方針、国の方針をしっかりと調査し、存続していかなければならない。

